

洞爺湖町議会平成30年9月会議一般質問

質問議員	件名	質問要旨	備考
<p>10番 大屋 治</p>	<p>1 地域の特性を生かした町づくりについて</p>	<p>(1) 噴火する有珠山や津波災害にどう対峙するか。            ①役場職員は普段、どのような防災訓練をしていますか。            ②避難先での諸問題を解決するための訓練は。            ③住民の避難先である旧花和小学校、旧成香小学校、旧香川小学校、旧大原小学校の管理状態は。            ④犬、猫などの小動物の避難はどうすればいいですか。            ⑤避難後の防犯対策に防犯カメラの設置は。</p> <p>(2) 道道洞爺虻田線（月浦～洞爺市街の区間）の新設整備について            ①交通安全施設の整備でバスの対面交通ができますか。            ②連続60mmの降雨があっても通行できますか。            ③早急に新設、整備の取り組みはできないか。</p> <p>(3) 特定外来種のアライグマやウチダザリガニについて            ①アライグマの捕獲の取り組みは。            ②ウチダザリガニの調査や駆除期間中、プレジャーボートや水上バイクの洞爺湖への乗り入れ禁止にはできないか。            ③できれば全面禁止にできないか。</p> <p>(4) 夕日ヶ丘パークゴルフ場及び道の駅あふたの整備拡充について。            ①早急に整備拡充ができないか。            ②道の駅あふたは地域振興を図る上、出品者をもっと増やせないか。</p>	<p>①</p>

## 洞爺湖町議会平成30年9月会議一般質問

質問議員	件 名	質 問 要 旨	備考
6番 立野 広 志	1 情報共有と政策意思形成過程への住民参加について  2 防災・減災対策について  3 町営住宅の管理・運営について	(1) 町民が自ら考え行動する「自治」を機能させるには、考える材料となる「情報」が不可欠です。 役場が持つ情報と、同じ質・同じ量の情報が町民に正しく伝わるならば、そこに様々な知恵が加わり、「自治」が機能し始めると考えられる。要は、情報共有が目的ではなく、共有した情報を使って町民みんなで誇りの持てるまちをつくるのが自治の目的であり形であると考えますが、町長の認識を伺う。 (2) 情報は、そもそも主権者である町民の財産である。このため、情報は積極的に開示すべきものであり、行政には情報を開示する責任があると考えますが、町長の認識を伺う。 (3) 「情報共有と住民参加」のための具体策として、これまでの取り組みと課題、今後の施策について伺う。 (1) 年2回の避難訓練が実施されてきたが、これまで検証結果や課題などの公表がされていないのはなぜか。 (2) 次期噴火災害に備えた対応は万全か。 ・火山防災マップの全戸配布 ・避難計画の町民周知の徹底 ・地域別（自治会別）避難集合場所、避難所の指定、要援護者の対応について (1) 老朽町営住宅に対する町の考え方、入居者の意向把握や懇談がどの様に行われてきたか。雨漏りや不具合に対する対応はされているか。 (2) 住宅管理人の任用において、その役割と責任の内容、待遇はどのようなものか。 (3) 入居者の遵守内容と対応について。	②
4番 今野 幸 子	1 コミュニティバスなどの利便性向上とバス待合所（バス停）の配慮について	(1) 必要とする人が利用しやすくするために、利用者や今後利用したいと願う町民の意向をどのように把握し、改善されるのか。 (2) バス停に日よけや椅子、寒さを防ぐ休憩所の設置をできないか。	③

洞爺湖町議会平成30年9月会議一般質問

質問議員	件名	質問要旨	備考
<p>4番 今野幸子</p>	<p>2 ヘルプマーク、ヘルプカードの周知と普及について</p>	<p>(1) 全国的に「希望するすべての障がい者を安心して地域で暮らせる社会づくり」を目指して、さまざまな取組みを進めています。その取組みの一環として、外見からは障がいがあると分からなくても援助や配慮を必要とされる方が、周囲の方の援助を得られやすくなり、北海道などもみんなで助け合う社会の実現を目指して、ヘルプマーク及びヘルプカードの普及に取り組むとしています。町はこうした活動についてどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 現在までの周知と普及状況は。</p> <p>(3) ヘルプカードをお持ちの方が、必要な配慮や支援を得られやすくなるためには、この取組みが広く住民の方に知っていただく必要があります。配付とともに、普及啓発についてどのように進める考えか。</p>	<p>③</p>
<p>2番 越前谷邦夫</p>	<p>1 防災力を高める町づくりについて</p> <p>2 洞爺湖観光の成長戦略について</p>	<p>(1) 未曾有の災害が発生している。災害に備える日頃の取組みが極めて重要である。西日本の災害は人ごとではない。災害に強い対策、とりわけ洞爺湖町は土砂災害警戒区域が3か所から3月30日付で新たに36か所が指定された。ハザードマップの確認、活用等指定区域住民への周知はいかに。</p> <p>(2) 有珠山噴火災害の教訓が生かされる防災対策等の認識は。</p> <p>(1) 国が胆振管内白老町に建設しているアイヌ文化、復興拠点（民族共生象徴空間）2020年開設に向けて進めている。洞爺湖観光を官民一体となり、さらなる成長させなければならない。その策を問う。</p> <p>(2) 観光立町の町として自然や食材等の地方の魅力を発信し、洞爺湖産食材のブランド価値向上や経済の好循環させなければならない。その策は。</p>	<p>④</p>

## 洞爺湖町議会平成30年9月会議一般質問

質問議員	件 名	質 問 要 旨	備考
2番 越前谷 邦 夫	3 交通安全対策 について	(1) 平成29年3月16日道道洞爺湖登別線眺湖 通りが完成し、全線開通したが未だに横断歩道、 信号機が設置されない。人身事故、物損事故も 発生している。さらにはマンホール等の環境に より大きな音で悩んでいる住民は少なくない。 何が原因で設置が遅れているのか。	④